

2017年11月17～19日 四日市東日本大震災支援の会 第50回派遣 熊本災害ボランティア 報告書

2017年11月20日
四日市東日本大震災支援の会 代表 鬼頭浩文(四日市大学教員)

熊本では、震災から1年半以上たっていますが、まだ多くの方が仮設住宅での不自由な避難生活をしています。住宅を再建し、前に進むことの難しさを実感します。支援の会では、仮設住宅で交流会を開催しました。

<活動概要>

■西原村仮設住宅でのお茶会&足浴交流会 (B・C棟2か所の集会所で開催)

参加者23名

四日市大学学生9名・教員1名(ドライバー)、四日市看護医療大学8名、卒業生3名(うち1名ドライバー)、一般社会人1名(ドライバー)

費用負担など

高校生・大学生12,000円(学生スタッフ6,000円、ドライバー0円)

現地のみ参加10,000円

★活動日の昼食・夕食を支給(その他の食事は各自負担)

★宿泊(素泊まり); 熊本県山鹿市山鹿1838「旅館巳喜(みき)」電話0968-43-5178

<スケジュール概要>

★11月17日(金)

20:00 四日市大学9号館集合(食事・入浴・歯磨きを終えて集合してください)

20:30 四日市大学出発(四日市大学バス停裏の職員駐車場)

★11月18日(土)

7:00頃～阿蘇地方の視察

10:00頃; 仮設住宅到着

10:00～16:00 ボランティア⇒萌の里で土産購入⇒旅館巳喜 入浴&宿泊(夕食は旅館で支給)

★11月19日(日)

6:30 旅館出発 帰路 ⇒ 18:00頃大学帰着



西原村の仮設住宅では、自宅を再建し、引っ越しされる方は少ない。
寒い2度目の冬を迎えようとしている。



足浴&お茶会では、震災の話を聴かせていただきました。



被災して休業していた阿蘇を見渡すことができる萌の里が復活しました。